

5月28日 マイコプラズマ乳房炎に関する情報交換会 質疑応答の概要

質問事項	回答	回答者
○感染から発症までに要する時間は？	○乳頭への感染実験では、黄色ブドウ球菌などの一般細菌は約30時間	NOSAI
	○マイコプラズマは60時間以上との記録がある	
○過去の治療内容はベストと言えるだろうか？	○その時代でのベストは尽くしたと考えている	NOSAI
	○ただし、治療に効果的な薬剤が限られる事が治療対処を難しくしている	
○バルク乳からポピスが検出されたら、臨床症状を示す個体がいれば畜主が気付くのでは？	○臨床症状を示す個体がいれば、それに気付くかどうかは畜主の意識による差が関係する場合もある	NOSAI
○見た目（臨床症状）だけから、マイコプラズマ乳房炎と他菌による乳房炎を見分けられるのか？	○自分の経験上では難しい ○個乳検査が必要と考える	NOSAI
	○マイコプラズマ菌種の特定も、見た目からは困難である	
○マイコプラズマが農場から消える（いなくなる）事はあるのか？	○試験場の調査結果は、バルク乳から検出されなくなったという意味であり、環境中の追跡調査や検査はしていない	試験場
○通常の乳房炎治療で投薬効果が無い場合、どのタイミングでマイコプラズマ検査を受けたら良いのか？	○抗生物質の出荷制限期間を過ぎてから検査へ出すのが良い	NOSAI
	○その際には、担当獣医師へ、「抗生物質が効かなかった」「マイコプラズマの検査を希望する」ことを必ず伝えてほしい	
○マイコプラズマは環境中に常在するのか？	○糞便中などの特定の条件であれば、長期間（約1ヶ月）生存した記録がある	家保
○マイコプラズマは、全ての菌種に対して抗生物質の効果が低いのか？	○現時点では、その様に考えている	NOSAI
○要望として、この病気への生産者自身の関心がまだ低いと感じる ○自分が当事者になるまで気付かないかもしれない ○生産者へ向けた広報活動や手法を工夫して欲しい	○今回は参加して頂いた方へ現状を伝えることに専念した ○農協単位等の集会時に、話題提供することも可能なので、農協からの依頼があれば本対策会議として対応したい（中核団体の協力を得て対応する）	生産連